



校長室だより

Newsletter from the Principal 校長簡訊



新堀 隆久

言葉をためる ～ 輝ける明日を創ろう～

みなさん、こんにちは。

唐突ですが、親戚の子供（3歳）が、少しずつ言葉を話すようになって、以前より癇癪を起こすことが減りました。

私たちは時々、「なんかムカつく」「もういい」「知らねえよ」などと、腹が立つとこんな言葉しか出てこないことがあります。

本当は、もう少し違うことを伝えたかったのかもしれませんが。

「自分のことを勝手に決めつけられたのが嫌だった」

「そんな言い方をされて、悲しかった」

「自分の気持ちも聞いてほしかった」

でも、その伝えたい思いを的確に表現する言葉が見つからない。

そんなとき、人はイライラして、強い言葉をぶついたり、時には手を出したりしてしまうことがあります。逆に、言葉をたくさん持っていれば、自分の気持ちや考えを、もう少し正確に伝えられるかもしれません。「むかつく」や「腹が立つ」だけではなく、

「悔しかった」

「不安だった」

「納得できなかった」

「分かってほしかった」

そうやって言葉にできれば、相手との間に別の道が見えてくることがあります。そのために、言葉をためておく。その一番の方法の一つが、読書です。本の中には、自分がまだ知らない言葉がたくさんあります。自分では考えたことのなかった考え方があります。自分の気持ちにぴったりくる言葉が見つかることもあります。

読書の秋です。難しい本でなくても構いません。一冊の本の中から、「この言葉、覚えておきたいな」と思う言葉を一つ見つけて書き出してみてください。

その一つが、いつか誰かと話すときの、自分の言葉になるかもしれません。